平成３０年度第１回大阪府障がい者自立支援協議会地域支援推進部会

精神障がい者地域移行推進ワーキンググループ議事概要

日　 時：平成３０年６月８日（金）午後２時～

場　 所：大阪府庁新別館北館1階　会議室兼防災活動スペース１

出席委員：島田委員､辻井委員（精神ＷＧ長）､堤委員､林委員、森川委員、

山本（勝）委員､山本（深）委員､山本（幸）委員、中村オブザーバー

【議題１】精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る「市町村単位の

協議の場」について

○ 事務局より資料１に沿って説明

【議題２】退院患者調査について

○ 事務局より資料２に沿って説明

♢委員意見等

【議題1】

* + 精神障がい者が社会の中で自分らしく活動することを、自分で選択するという部分に目を向ける、そういう視点を持つことが必要である。
	+ 市町村にとっては、事例が示されたことで会議の進め方がイメージしやすく助かるが、実情として、地域で暮らすまでの支援の進め方にノウハウがないので、その部分についても例示をしてほしい。
	+ その事例がどのように帰結したかまでは必要ないと思うが、次にどのように取り組んだか、どう次のステップにいったかという説明があってもいいのではないか。
	+ 市町村の協議の場では個々人の課題ではなく地域の全般的な課題を協議し、より具体的な支援は現場のケア会議で検討するべき。
	+ 今地域では、現に地域に住んで課題を抱えている人への支援で手一杯であり、これから退院する人たちのことを考える余裕が全くない。そのため、協議の場の目的を、単なる事例検討だけではなく、地域移行支援について責任を持つことだと明確にすることが必要である。
	+ 会議のメンバーには、地域の人も入れるべき。保健・医療・福祉に「地域」を加え、当事者や家族、地域のいろいろな生活者の方たちにも入ってもらうべき。実際に入ってもらうメンバーは市町村の実情に合わせて柔軟に対応すればよい。
	+ 市町村にデータ整理を求めているが、データから何を引き出そうとしているのか全く示されていない、活用方法を示すべき。

【議題２】

* + 調査は効率的かつ本来の退院支援に活かしてもらえるようなものにしてほしい。
	+ 現在の実態では、新規の入院の９０％の方は長期入院化しない。そのため、1か月限定で実施した場合、ほとんどが短期間で退院するので、WGの検討対象である長期入院者のデータは少ししか上がってこない。調査期間を延ばして長期入院化した方の数を調査したほうが良い。
	+ 入院の形態によっても期間は変化するのかなと感じる。

　【その他】

　　　　○事務局より説明。

次回ワーキングは、退院患者調査の結果を取りまとめたうえで開催予定。後日日程調整させていただく。